

飛騨市 地域おこし協力隊を 紹介します!



市では今年度新たに3名の地域おこし協力隊に委嘱し、プロジェクトを推進しています。

今回は市が運営している「薬草ビレッジ構想推進プロジェクト」に従事している毛受聖佳さんを紹介します。

地域おこし協力隊とは?

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域に移住し、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住を図る取り組みです。



薬草をきっかけに健康的な毎日を送れるように。
気軽に薬草を学びあえるコミュニティを作り魅力を伝える。

めんじょう せいかに
毛受 聖佳さん

出身地：愛知県安城市

委嘱日：令和6年10月1日

▶協力隊に応募したきっかけは?

自然の中で過ごすことが好きで、いつか自給自足の生活をしてみたいという夢を持ち、移住先を探していました。そんな中、岐阜を訪れた際、あるおばあちゃんが畑で何かを摘んでいるのを見かけ、「何か美味しいものはありますか?」と尋ねると、「あずき菜」という野草を手渡され、「胡麻和えや天ぷらにすると美味しいよ!」と教えてくれました。さっそく調理してみたところ、その美味しさに驚き、野草に興味を持つようになりました。そんな時、飛騨市が薬草資源を積極的に活用する取り組みを行っていることを知り、薬草文化を自分の生活に取り入れ、さらに多くの人にその魅力を伝えたいと思い、地域おこし協力隊に応募しました。

▶活動内容は?

飛騨市で薬草文化を広めるために、市や関係団体と協力しながら、市民向けに薬草の使い方を紹介するワークショップを開いたり、SNSやイベントを通じて情報発信をしています。2月末には「ひだ森カフェ」というコミュニティを立ち上げ、薬草を学び合い、体験を共有できるサロンを開催しました。今後も毎月2回程度開催する予定です。

▶特に印象に残るエピソードは?

飛騨市に引っ越して早速家を購入しましたが 慣れない雪おろしに苦労しています。きちんと雪かきができているせいで、普段通りに出庫ができず車がスタックしてしまい痛い思いをしました。ですが、いつも近所のみなさんが優しく手伝ってくださり、都会では味わえない温かさに感動し、このつながりを大切にしていきたいと思いました。近所のみなさんとは春になったら薬草取りに行きましょうね!と約束をしています。

▶今後の展望は?

薬草を使ったメニューの開発や薬草料理を提供できるカフェの企画を進めています。さらに、市外の専門家や企業と連携して、新しい活用方法を考えたり、薬草フェスティバルの運営にも関わりながら、長年引き継がれている知恵とその魅力を伝えていきたいです。薬草をきっかけにみなさんが健康的な生活を送れるように、今まで大切にされてきた文化を守っていきたいです。



ひだ森カフェの様子

問 みるさと応援課 ☎0577-62-8904

